

# 令和元年度第2回空知管内特別支援連携協議会 概要

空知教育局義務教育指導班

令和元年12月16日（月）に、空知合同庁舎において、令和元年度第2回空知管内特別支援連携協議会を開催しました。

本協議会では、「令和元年度空知管内における特別支援教育の現状」に係る報告を行うとともに、「高等学校における就労支援の現状と課題」「教育と関係機関における情報の引継ぎと課題」について、話題提供していただきました。その後、地域における一貫した支援と、その前提となる情報の共有について協議しました。



## 話題提供

### ○ 高等学校における就労支援の現状と課題について

北海道美唄尚栄高等学校教諭 敷浪 忍



- ・客観的な実態把握のため、児童相談所や空知教育局の巡回相談を活用し、心理検査を行ったり、福祉制度を活用した雇用を進めるために療育手帳の取得を勧めたりしている。
- ・心理検査の実施や療育手帳の取得、福祉制度の活用などについては、保護者や本人の理解が必要であり、保護者や本人の障がい受容を進めるためには、中学校からの一貫した支援が重要である。
- ・療育手帳を取得することができない発達障がいの疑いのある生徒については、福祉制度を活用した就労ができないため、早期から個に応じた支援をする必要がある。

### ○ 教育と関係機関における情報の引継ぎと課題について

地域生活支援センター「あ〜ち」センター長 川瀬 宏義

- ・教育と福祉の連携を進める上で、学校が相談支援専門員の存在や役割、福祉制度について理解を深める必要がある。
- ・福祉からは、サービス等に係る情報を発信しているが、学校には受け取ってもらえていないと感じている。
- ・障がいの程度が軽度である場合には、自分のことを自分で周囲に伝えることができる力が重要であり、本人が職場などで自分の得意なことや不得意なことについて説明できるよう「そだちのスタートシート」の役割を検討する必要がある。



## 協議

### 【保護者から】

- ・地域によって活用できる福祉サービス等の資源に大きな差があるため、地域における一貫した支援の充実が図られるようにする必要がある。
- ・教育や福祉に係るサービスについて、どこへ行けば必要な情報を得ることができるかなど、窓口の明確化を図る必要がある。

### 【教育委員会から】

- ・学校においては、管理職がリーダーシップを発揮し、校内において組織的に特別支援教育を推進する必要がある。
- ・「そだちのスタートシート」については、小・中学校から高等学校へ確実に引き継ぐとともに、保護者がシートの内容を理解し、子どもの困難さについて受け入れられるよう丁寧に支援する必要がある。

### 【関係機関から】

- ・「グレーゾーン」と言われる児童生徒については、勉強ができて進学ができるケースは多いが、周囲との関係が上手くいかなかったり職業生活でつまずいたりすることが多く、支援の難しさがある。

### 【大学教授から】

- ・「そだちのスタートシート」については、将来の社会生活を見通し、本人が必要な支援を受けながら生きていくために必要な情報を盛り込むことや、情報のつながりを整理すること、本人の意向を反映できることなどを、今後整理する必要がある。

事務局から  
空知管内の教育及び福祉サービスの情報については、教育局HPに掲載しています。



## 今年度の取組

- 各学校において、福祉制度の理解を進め、教育と福祉の連携を図る必要がある。
- 「そだちのスタートシート」については、本人の自立を促す観点から、社会生活を見通したものととなるよう、内容を検討する必要がある。
- 学校段階間の引継ぎが徹底されるよう、「そだちのスタートシート」の活用について、各市町や校長会等において積極的に働きかけを行う必要がある。